



【第18回 COBRAゼミナール】

特定非営利活動法人
建設副産物リサイクル促進機構

日時：平成19年4月18日（水） 18:00~19:00
場所：文京シビックホール 会議室2
講師：小川知明（有）テクノミックス 代表取締役
演題：焼却炉技術と環境について
内容：



日本人は、1人1年に17tの資源を使って、10t/人・年の製品を作り、4t/人・年の廃棄物と9t/人・年の二酸化炭素CO2を排出している。人間が生物として必要なCO2は、0.3t/人・年といわれるから、その30倍もの有機物を燃やして、便利な生活をしている。（世界平均の10倍、アメリカは50倍）



（ごみについて）

「廃棄物」とは・・・「ごみ」とは・・・

誰かが、何らかの理由で一度は所有し、その後価値を失った物を「ごみ」という

「ごみ処理」の歴史

廃棄物の種類

廃棄物の実態

一般廃棄物；ごみ総排出量：5,059万トン、減量化量（直接焼却量）：3,914万トン（77.5%）

産業廃棄物；排出量：417,156千トン、減量化量（直接焼却量）177,466千トン（43%）

「ごみ」を取り巻く問題

1. 最終処分場の問題
2. 焼却施設の問題
3. 医療廃棄物に関する問題
4. 不法投棄の問題
5. 資源リサイクルの問題（最重要課題）
6. その他の問題

（焼却炉について）

焼却炉とは

有害物質の無害化を行なう施設

ストーカ式焼却炉、流動床式焼却炉、

ロータリーキルン式等

焼却炉の歴史

焼却炉の条件

（環境・公害について）

環境・公害に対する規制

公害対策設備生産高

1970年代・・・1千億円以下 6~7千億円

1990年代・・・6~7千億円 15~16千億円

循環型社会形成推進基本法

リサイクルの状況

ごみ焼却施設の整備状況

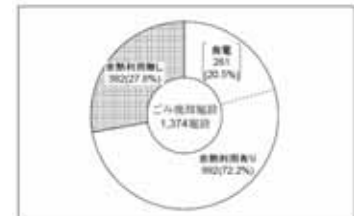


ジェットリサイクルシステム

ごみ焼却施設の種類別施設数・処理能力 (処理能力:トン/日)

| 施設の種類 | 焼却(直接溶融、ガス化溶融・改質以外) | 直接溶融 | ガス化溶融・改質 | 合計 |
|-------|---------------------|---------------|---------------|-------------------|
| 施設数 | 1,295 (1,329) | 25 (21) | 54 (46) | 1,374 (1,396) |
| 処理能力 | 184,614 (184,195) | 3,532 (3,102) | 7,806 (6,559) | 195,952 (193,856) |

(カッコ内は平成13年度データ)



サーマルリサイクルの状況

将来展望と処分の限界

この調査研究は、NPO COBRA の自主研究の中の一つであり、助成金を受け行ったものである。

質疑：ジェットリサイクルの実績紹介等について活発な質疑応答がなされた。

参加者：会員15名、非会員5名、合計20名（交流会参加者：16名）

資料：資料が必要な方は、下記に連絡ください。

担当：鈴木 TEL: 03-3872-6064 e-mail: cobra@kotohcorp.co.jp